

教育広報

かけはし

第26号 平成8年9月20日発行
発行 千代田区教育委員会



正面から見た昌平童夢館

主
な
記
事

☆いよいよ開館 「昌平童夢館」
しやうへいどうむかん

☆学校防災基本計画ができました

☆0-157にかかわる対策とお願い

☆夏季施設の思い出

昌平童夢館(外神田三丁目複合施設)は、9月28日の落成式を間近に控え、その偉容を現し始めました。

昌平小学校や幼稚園の子供たちが待ち望んでいた新校舎での勉強も、もうすぐ実現します。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

いよいよ開館



▲約4教室分の広さの多目的ホール



▲テニス(2面)も可能な屋上校庭



▲水深調節が可能な25m温水プール



▲学年ホール(手前)と一体にもなる教室

施設の地域利用

団体利用

○利用できる施設
小学校: 体育館(講堂)、多目的ホール、屋上校庭、家庭科室、音楽室、図工室など
児童館: 音楽A・V室、遊戯室、集会室

○利用時間帯
平日は午後6時から9時、第2・第4を除く土曜日は午後1時から9時、学校休業日は午前10時から午後9時までです。この時間帯の中で、自由な時間に入場できる2時間単位フリータイム制です。なお、入場できるのは午後8時30分までです。

○利用方法
区内に在住・在勤・在学している方を中心に構成されている団体が対象で、あらかじめ利用申し込みが必要です。申込方法、利用料金など、くわしくは左記までお問い合わせください。

休館日

毎月第2日曜日
年末年始(12月28日～1月4日)
その他臨時休館日

お問い合わせは

10月1日までは、文化施設整備担当課 (3264-01151)
10月2日以降は、昌平まちかど図書館 (3251-5641) へ
内線3191・2

昌平童夢館

外神田三丁目の旧芳林小学校の跡地に建設を進めていた、昌平小学校、昌平幼稚園、昌平まちかど図書館、神田児童館からなる複合施設が間もなく開館します。施設の愛称も、子供たちの夢を育む学校や児童館などが入った施設であること、屋上校庭の屋根が開閉式ドームであることから「昌平童夢館」と決まりました。

上がり舞台を設け、多彩な行事が行えるようにしました。児童館には、ゆとりあるスペースに遊戯室、音楽A・V室、図工室などを配置し、子供たちが個性に応じた多様な活動を展開できるようにしました。

昌平小学校・幼稚園の児童・園児は、9月30日には新しい施設での生活を開始し、10月2日には、まちかど図書館、児童館もオープンします。そこで、この施設の主な特徴をご紹介します。

また、この昌平童夢館は、地域の人たちによるコミュニティスクール活動を支援する施設ともなるものです。

昌平小学校には、教育方法の多様化や新たな時代に対応した教育が展開できるよう、さまざまな配慮がなされています。例えば、学年ホールを普通教室に隣接して設置し、多様な学習活動を可能にする

この理念に基づき、小学校の体育館・屋上校庭・多目的ホールなどや児童館の音楽A・V室・集会室などの施設を、教育活動や児童館の本来活動に使用しない時間帯に地域の人たちに広く開放し、学習や交流の場として活用していただくことにしています。

昌平幼稚園には、保育室に面して土の園庭を設けるとともに、遊戯室にはせり

昌平童夢館は、このように地域を構成するあらゆる人びとにとっての生涯学習活動・コミュニティ活動の拠点となる施設です。

施設の概要

(所在地: 外神田3-4-7)

6階	小学校	屋上校庭(開閉式ドーム)	
5階	児童館	学童クラブ室 音楽A・V室 図工室 遊戯室 集会室 図書コーナー 幼児室 事務室など	
4階	小学校	普通教室(4室) 学年ホール 音楽室 図工室 理科室 国際理解教室 児童会室など	体育館(講堂)
3階		普通教室(4室) 学年ホール 保健室 コンピュータコーナー 相談室 会議室 校長室 職員室など	多目的ホール
2階		普通教室(4室) 学年ホール 家庭科室 多目的室(和室) 小学校昇降口など	
1階	小学校	小学校図書室	
	幼稚園	保育室(3室) 遊戯室 職員室など	
		まちかど図書館	
地下1階	小学校	記念室 防災用備蓄倉庫 給食厨房など	
地下2階		25mプール 幼児プール ジャグジーなど	

学校防災基本計画が できました

平成七年一月十七日に発生した阪神・淡路大震災の惨状は、一年八カ月を経過した現在でも記憶に新しいところです。震災直後から市内の多くの学校が避難所となり、教職員も救助活動や避難所の運営に当たりました。

この大震災の教訓を踏まえ、このたび従来の学校防災計画を見直し、新たに「学校防災基本計画」を作成しました。今回は、その見直しのポイントを中心に説明し、災害時の、地域における学校の果たす役割について、ご理解いただければと思います。

災害発生前の十分な準備

○安全の点検

学校(園)は子供たちの学習や生活の場であるとともに、災害時には地域の方々の避難所となる施設でもあります。そのため普段から破損、故障、転倒、落下などによって危険な事態にならないように十分な点検をします。

○防災用の備品の整備

学校(園)では災害時の避難生活に備えて必要な物資を備蓄しています。学校(園)にいる子供たちはもちろん、教職員や避難された方々のためにこれからも備蓄物資の整備に努めてまいります。また、消火やトイレの排水などに活用

するため、学校(園)のプールには夏季に限らず常時、水を蓄えておくことにしました。



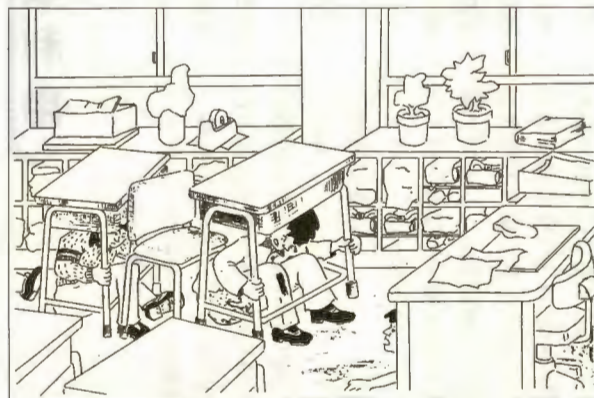
▲職員室の惨状(神戸・本山中)



▲整然と避難訓練(和泉小)

○子供たちの緊急避難
災害発生時には、学校(園)では子供たちの安全を確保し、生命を確保することが最優先の課題となります。そのために子供たちのいろいろな学習や活動の場を想定し、避難組織の編成や、避難路や避難誘導の仕方などを決めています。

○子供たちの保護者への引き渡し
子供たちが安全に避難した後に、保護者の万々に無事引き渡すことが学校(園)の大切な役目です。万全を期すために細かい留意点を考えていますが、何らかの事情で引き取りに来られず子供が学校



▲地震が起きたら、まず机の下へ

(園)に残留する場合は教職員が残って世話をすることになっています。日頃から家庭でも非常時に備えて、話し合いをしておくことも大切なことだと思います。

○学校避難所の開設と運営
学校(園)が避難所となる事態を想定し、平時より地域の方々と教職員、区の職員から構成する(仮称)避難所連絡協議会を設けることにしました。

学校(園)は、深夜や早朝の災害発生時の場合、区長の指令が出される前に、避難所となる必要があります。区内に住む職員や地域の方々が学校の門、玄関を開け、避難所の運営に当たります。また、開設当初は教職員も役割を分担して運営に協力することになっています。



▲学校残留の子供も落ち着いて行動

少しでも早く学校(園)を再開する

○学校(園)の復旧
阪神・淡路大震災の時に、子供たちにとって学校(園)で友達や先生と再会したことが心の安らぎになったと報告されています。そのため、一日も早く学校(園)を再開し、教育活動を開始することが学校(園)の第一の使命と考えます。

再開に当たっては、子供たちや教職員の安全を確認したり、校舎の被害状況について調査を行ったりした上で、教育委員会に報告、協議して判断します。

千代田区の指定文化財

その二

- 指定番号 千有民第一号
- 種別 千代田区有形民俗文化財
- 名称 富士講祭祀具 附登拝装束一式
- 員数 二十七点
- 所有者 千代田区教育委員会
- 指定日 昭和六十一年七月一日

富士講は、富士山への登拝を主な目的とする信仰組織です。江戸時代の後半、江戸を中心に、商人・職人・農民らを集めて組織化し発達したもので、一時は、「江戸八百八講、講中八万人」ともいわれ、日本近代の民衆宗教の源流を形作ってきました。

指定した「祭祀具」は、富士講の儀式に関するもので、昭和三十年頃まで、神田にあった講社のひとつである「丸田講」が使用していたもので、「拝み簞笥」と称される各種の祭祀具を収納しておく木製の簞笥と、その中に収納されている祭祀一式です。

祭祀具は、「祭神像(木花咲耶姫、青銅製)」「一休・富士山(真鍮製)」「基・天狗(木製)」「二休・猿(木製)」「三休・鏡」「鏡台」「灯明台」「燭台」「灯籠」「香炉」などです。「登拝装束」は、前掛け・手甲・脚半・股引・地下足袋・頭陀袋・道中衣・数珠の一式で、「丸田講」の講紋が染め付けられているものもあります。

なお、神田須田町二丁目二十五にある柳森神社の境内には、区内の富士講に関する石碑が五点残されています。

本指定物件は、江戸時代以降の本区における庶民信仰の歴史を知るうえで、貴重な資料といえます。



O-157にかかわる対策とお願い

病原性大腸菌O-157による食中毒の波紋が全国的な広がりをみせているなかで、二学期が始まりました。

千代田区教育委員会では、学校給食の果たす役割を再認識するとともに、O-157などによる食中毒対策をはじめ、つぎのような学校環境衛生の一層の徹底につとめてまいります。

※ 学校給食の衛生管理と献立について

学校給食につきましては、食品の取扱、施設設備、器具等の安全・衛生管理に十分な注意を払い、調理従事者にはO-157検便及び研修を実施しました。

七月二十一日から実施いたしました夏季施設についても、同様の措置を講じました。また、今回の食中毒事故を契機として、より一層の安全衛生管理を徹底するため夏季緊急点検を行いました。

なお、今回の食中毒事故の発生により二学期から当分の間、次のような方法による献立といたしますのでご理解いただきます。

▼ 生野菜等の提供はいたしません
加熱調理をするときは、中心温度75℃

で一分以上加熱します。

揚げ物・焼き物・煮物・炒め物など野菜については加熱処理を行います。また、二次感染を防止するため、調理室でのあえものは行いません。

▼ 栄養価について

千代田区の学校給食においては、児童・生徒の家庭における食生活を考慮しながら、エネルギー、タンパク質及び脂質は一日に必要な栄養素の三分の一量、カルシウム、鉄、ビタミンA、ビタミンB1、ビタミンB2及びビタミンCは二分の一量とするなど、栄養のバランスのとれた食事の提供を行っております。二学期からの給食も栄養価を落とさないよう努力していきます。

▼ 食材は安全なものを選びます

食材の生産・流通・供給者等に対しては、国（文部省、厚生省）や都衛生局、区保健所の示した方針に基づき、より一層厳しい衛生管理の方針をたて、安全な食材確保のために全力をあげています。

※ 学校の飲料水について

学校の飲料水は、水道水を使用しています。この水道水は、送水の段階で塩素を混入し殺菌をしています。また、各学

校での水質検査も行いました。

▼ 日常点検について

学校では、毎日蛇口からの水道水に残留塩素濃度が一定（0.1ppm）以上あることを確認し、児童・生徒の飲用としています。

※ 残留塩素濃度が一定以上確保されていれば細菌は殺菌されています。

▼ 受水槽及び高架水槽の清掃について

夏季休業期間中を利用し、受水槽及び高架水槽の清掃及び消毒を行いました。

※ 学校のプールについて

学校のプールも水道水を使用していますので、飲料水と同様に塩素により殺菌されています。また、学校では、プールの使用前及び使用中（二時間毎）に残留

塩素濃度が一定（0.1ppm）以上あるかどうかを確認しています。

なお、残留塩素濃度の確認以外にも施設全体の管理、消毒剤の管理、水質の管理等を行い衛生管理を図っています。

※ 家庭へのお願い

O-157による感染は、手洗いの励行などの衛生習慣をきちんとまもることです。

日頃から家庭の健康管理に十分気を配り、規則正しい生活をおくり、体力、抵抗力をつけるよう心がけましょう。

▼ 流水と石けんで、手をよく洗う

帰宅後・食事の前・用便後・調理の時は、必ず手を洗いましょう。

▼ 野菜等は流水で十分に洗う

調理の際に生肉などを切った包丁、まな板やボウル、ふきんなどはよく洗い、家庭用漂白剤等で消毒したり、熱湯を通すなどして清潔に心がけましょう。

▼ 食品は十分に加熱

調理したものは早めに食べましょう。

▼ 腹痛や下痢などの症状がある時

早めに病院に行きましょう。また、学校へも知らせてください。

夏季施設の思い出



▲はげましあつてひと泳ぎ（一橋中）



▲甘くておいしかったスイカ（和泉小）



▲旧碓氷峠でハイキング（今川中）



▲やつと登った金時山（お茶の水小）

婦恋村と五城目町のスポーツ交流

婦恋村や五城目町とのスポーツ交流は今夏も盛大に行われました。八月四日には婦恋村チームと少年野球の試合が行われ、さらに八月十日には、五城目町チームと少年水泳大会が開催され、ともに熱戦が繰り広げられました。



▲婦恋村チームと野球の試合（外濠公園グラウンド）



▲五城目町チームと水泳競技（区立総合体育館プール）

随想

きょういく

ひと頃、学校現場では「行事の精選」が合言葉になっていた。確かに教育活動に支障をもたらし、行事の煩雑を整理することの必要もあった。が、そのために行事の持つ意義が次第に忘れ去られていく傾向をみて私は疑念を抱いていた。

「生命とは本来緩慢なくり返しにすぎない」というP・ヴァレリー一流の寸言のあるように生命には節がなく連続的であると言えよう。しかし、人間の実生活はそれでは困る。緩急起伏の欠ける生活を送るだけではリズムや潤いが生まれな

い。人の生活には精神を高揚させる時々が必要である。だから、人々の智慧はそうした機会を創り出した。

わが国には古来から伝統の一つに年中行事がある。都会、農山村漁村、どのような地域でも年中行事を大切に継承してきた。わが千代田区でも同じ。行事は大切にされている。数々の行事の意義は意識されているか否かにかかわらず、その伝統は今日も盛んに受け継がれている。民俗学者柳田國男によると生活には昔から「ハレ」（ふだんと異なる改まった場合）と「ケ」（日常的な）の生活があつて、そのハレ（晴）・ケ（曇）の組み合わせが生活にリズム感をもたらし生き甲斐を感じさせていたという。

「一年は三百六十五日、その三百餘はただの日、又はフダンの日と謂つて、きま

った仕事をくり返し、忘れ過ぎて行くのをあたりまへのやうに思つて居る中に特に定まった或日のみは、子供が指を折つて早くから待ち暮し、親はその為に身も疲れもいとせず、何くれと前からの用意をして四隣郷黨一様に和やかにその一日を送ろうとする。それが今日謂うところの民間の年中行事であつた。」（傍訓を除き

生活にリズムを ——行事の意義を見直す——

栗 岩 英 雄



表記原文のまま、筑摩書房版「定本柳田國男集第十三巻・年中行事覚書819ページ」

適切な生活のリズムは人の心に意欲をもたらし感動や感激、夢などの情意を育てる。もちろん子供の心への影響は大きい。「もういくつ寝るとお正月／お正月には……」の歌はそれを象徴していたが、

今の子供たちの心情とは合わなくなつてしまっている。いつでもお正月が来たやうに欲しい物が買つてもらえる。

私の子供の頃はハレの日が大変待ち遠しかった。新調の衣服や履物はハレの日を待つて身に付けさせてもらえた。晴々しき、晴れ着、晴舞台が実感できた。

「〇〇の日まで待つてね。」と両親に悟されハレの日（行事の日）の来るのを楽しみに、変化なきケの日を一生懸命過ごした。そして、ハレの日には身も心も躍動させ、いささかの緊張感さえも感じながら、その日を改まった気分でもごし、次のハレの日に向けてまた、何らかの夢や楽しみを心に描き、小さな目あてを胸に抱いて変な日々を自分なりに色づけしながら生活したものである。だから、貧富の別なく心のリズム、生活のリズムを豊かに抱いて感動のある日々を送ることができた。

今日、正月や節句・誕生日、始業式・終業式・卒業式・運動会・学芸会・地域の祭礼・縁日など、家庭行事、学校行事、社会行事等はどうのように受けとめられているのだろうか。人間が人間らしく潤いとリズムある生活を送るため、改めてその意義を顧みてはいかがだろうか。

くりいわ ひでお

千代田区教育委員長

元錦華小学校長・幼稚園長

随想

きょういく

編集後記

今年の夏はアトラクタ・オリンピックと病原性大腸菌O-157の話題でもちきりでした。とりわけ大腸菌O-157は、大阪府堺市の児童の大量罹患という非常事態となり、学校給食がその伝染媒体ではないかといわれています。

すでに二学期も始まりましたが、堺市の事態を他山の石として、学校給食の衛生管理の徹底はもちろんのこと、子供たちの衛生意識を高め、手洗いの励行など実践的な態度を育てることも大切なことだと思ひます。

今年の夏季施設は概ね天候にも恵まれ、どの学校も所期の目的を達成できたようです。海に山に子供たちは、大自然の中で得難い体験ができたことと思ひます。

待ち望んでいた昌平童夢館がいよいよ開館します。九月二十八日に落成式が行われますが、小学校や幼稚園のほかにもさまざまな施設が開設されます。多くの方々に親しまれる施設となることを期待してやみません。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。

教育広報「かけはし」第二十八号
平成8年9月20日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102 千代田区九段南1-6-11
☎(03)664-0151 内3114